

名古屋市立大学看護実践教育モデル事業の概要と活動報告

名古屋市立大学看護実践教育モデル検討委員会

堀田 法子（名古屋市立大学看護学部）
金子さゆり（名古屋市立大学看護学部）
池田 由紀（名古屋市立大学看護学部）

平岡 翠（名古屋市立大学病院看護部）
水野千枝子（名古屋市立大学病院看護部）
井出 由美（前名古屋市立大学病院看護部）

I はじめに

名古屋市立大学看護実践教育モデルは、名古屋市立大学看護学部と名古屋市立大学病院看護部がユニフィケーション事業として、平成25年7月に名古屋市立大学看護実践教育モデル検討委員会を立ち上げ、8回の委員会を開催し議論を重ねて構築した。本モデルは、エビデンスに基づいた質の高い臨床看護実践ができる人材、および地域住民の健康支援に貢献できる人材を輩出することを目的として、モデルの概要、大学教育から現任教育におけるジェネラリスト育成プログラム、運用方法を検討し、平成26年度から試験的運用を始めた。現在1年が経過したことから、モデルの概要と1年間の活動報告および評価を報告する。

本モデルは、平成24年に新たな人材要求としてクリニカルティチャーの設置を提案した名古屋市立大学看護学部北川眞理子教授と前名古屋市立大学病院岩田広子副病院長兼看護部長から引継いだ事業である。

II 名古屋市立大学看護実践教育モデル事業の概要

本モデル構築の目的は、名古屋市立大学看護学部と名古屋市立大学病院看護部が協働し、理論と実践の融合を図り、エビデンスに基づいた質の高い臨床看護実践ができる人材、および地域住民の健康支援に貢献できる人材を輩出することである。このモデルでいう人材は、一般の看護師であるジェネラリストのことである。

目的を達成するために、「卒業時の臨床看護実践能力の質の向上を図る」「大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる」「臨床上の問題を科学的に探求する」「地域住民の健康を促進する」という4つの目標掲げ、さらに目標を達成するための具体達成目標を次に示す。

看護学部生の「卒業時の臨床看護実践能力の質の向上を図る」ためには、病院看護部が既に行っている実習指導のみならず、講義や演習を協働で行うことで、最新の

知識・技術が提供できること、看護師になることへのモチベーションが向上できること、演習や実習の構成・指導案についての意見交換を行い、より現実に即した教育が提供できることが挙げられる。

次に、病院看護部職員の「大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる」ためには、看護学部が協働することで、新人・中堅看護師教育ではリアリティショックの緩和、適応力の向上、アセスメント力の向上に、教育担当者と臨床指導者への教育では、指導力の向上、リーダーシップの向上が挙げられる。

「臨床上の問題を科学的に探求する」ために、看護学部と病院看護部が共同研究を行うこと、さらに、「地域住民の健康を促進する」ために、地域住民への健康支援活動を行うことが挙げられる。

これらの目標達成による期待される成果として、①演習や実習の構成を共同で考えることで臨床に即した授業が展開できる。②学習内容や教授方法を理解することにより、効果的な学生への指導が提供できる。③効果的な現任教育を行うことで、患者への質の高い看護実践が提供できる。④共同研究を行うことで科学的思考を看護実践に生かすことができる。さらに、⑤地域住民が健康の維持・増進に関心をもつことができる。

III 平成26年度事業報告

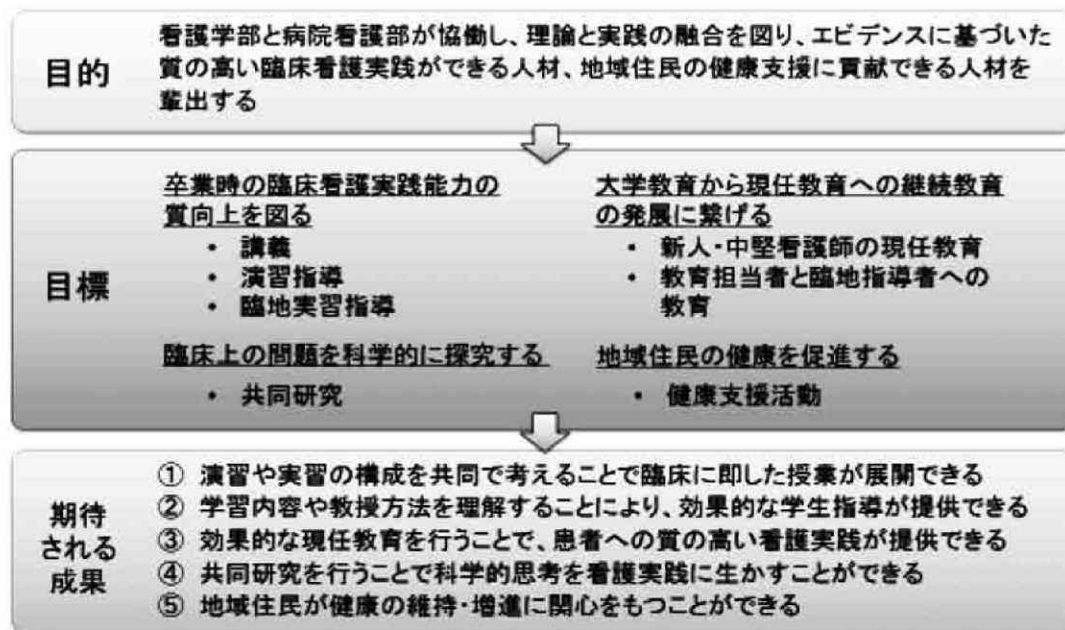
前記した4つの目標達成に向けて、平成26年度は3事業「演習指導者の運用」「新人・中堅看護師の現任教育への参画」「共同研究の推進」を運用した。

1. 演習指導者の運用

この事業は、目標「卒業時の臨床看護実践能力の質の向上を図る」に対応するものであり、平成26年度は学部専門科目6科目において、演習指導者のべ47名（表1）を活用することができた。

科目責任者による評価として「学生にとって看護技術

名古屋市立大学看護実践教育モデル



をよりイメージ化しやすく習得することができた」「実習への不安の軽減につながる」「臨床の看護師から指導を受けることで、よりリアルな感覚をもって演習に取り組むことができた」「技術を習得することへの動機付けが得られた」など、学生の学習効果が高まったといった意見が聞かれた。また、看護援助論ⅠA（1年生）、看護援助論ⅠB（2年生）の学生によるアンケート結果から「現場で働く看護師さんの現場の声を聴くことができた」「看護技術への関心がより高くなった」「将来につながる演習であると意識でき意欲が向上した」「臨床での工夫について話を聴くことができた」などの意見が聞かれ、学生の臨床現場の実感と将来像への意識化に影響していることがわかった。

演習指導者を行った看護師からの評価として「短い時間での説明だけで指導者の役割を感じなかった」「ただ見守るような役割でよいのか疑問」「事前の説明で指導者は学生の態度を注意しないではいまいと言われたが、注意すべきでないか」「現場のやり方と大学のやり方が違うので指導者が演習にはいる意味があるのか」など、演習指導者の役割が不明確なまま演習指導を行っている状況が明らかになった。

また、運用上の課題として、演習指導者の日程調整（事前打ち合わせを含む）が困難であったケースがみられた。今後の検討課題として、1）演習指導者の役割・位置づけについての周知徹底、2）演習指導者の選定の明確化、3）病棟棟長と主任による日程調整、があげられた。

2. 新人・中堅看護師の現任教育への参画

この事業は、目標「大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる」に対応するものであり、平成26年度看護部研修のうち、4つの研修について看護学部の教員3名による講義を行った。（表2）

3. 共同研究の推進

この事業は、目標「臨床上的問題を科学的に探求する」に対応するものであり、平成26年度は2つの共同研究を進めている。

1）テーマ「ユニフィケーションによる看護実践能力向上に向けた多重課題に関する教育プログラムの開発と評価」（平成26年4月～平成27年3月）

看護学部：脇本寛子，矢野久子

看護部：渡邊美奈，平岡 翠，（井出由美）

2）テーマ「非鎮静化でMRI・CT・RI検査が受けられるためのプレパレーションの実践とその効果」（平成26年3月～平成29年3月）

看護学部：山口孝子，堀田法子

看護部：小川彩花，松井幸子，杉田なつ未

IV 今後の課題

演習指導者による指導については、学生の反応もよく教育効果が上がっている。しかし演習指導者は、検討した役割や位置づけについての周知が徹底されないままに参加していたこともあったため、今後はクリニカルラダーとしての位置づけからも、主任または主任クラスの看護

師を選定し、主任会で演習指導者の役割、位置づけについての調整を図ることとする。

また、研修プログラムについては一部再検討することや、新人フォローアップ研修については、今後は積極的

に進めていくこととする。今後もジェネラリスト育成のために、看護学部と看護部がより一層協同し事業を推し進めていきたい。

表1 演習指導者

科目名	演習内容	日時	担当者
看護援助論IB	消化器系／筋骨格系のアセスメント	5/30 (3, 4限)	16階北 12階北 救急 金井 麻衣 武田季詩子 寺西 幸子
	呼吸器系／循環器のアセスメント	6/6 (3, 4限)	14階北 15階南 I C U 矢代 律子 菅井 雅美 岩田麻衣子
	寝衣交換・足浴	6/13 (3, 4限)	8階南 10階南 13階北 小田波禎那 小野寺美佳 野口恵美子
	洗髪・清拭	6/20 (3, 4限) 6/27 (3, 4限)	11階北 11階南 15階北 17階 14階南 12階南 佐藤亜也子 渡辺 美奈 神原 智美 齋藤 伊代 横井 悠里 原口 陽子
看護援助論IA	ベッドメイキング	10/8 (3, 4限)	7階北 8階北 10階南 奥村 真梨 稲垣 水宝 小林 翔子
	安楽な姿勢（ポジショニング）	10/22 (3, 4限)	13階北 14階北 17階 福田 真弓 矢代 律子 井上 裕美
	臥床患者のリネン交換	10/29 (3, 4限)	15階北 15階南 16階北 松下 和可 加藤 大貴 原田 敬恵
	バイタルサイン測定 バイタルサイン測定の実技試験	11/19 (3, 4限) と 12/10 (3, 4限)	救急 手術室 14階南 伊東亜由美 長江由美子 岡田亜梨左
	寝衣交換・足浴	12/3 (3, 4限)	13階南 12階南 11階南 上野さやか 原口 陽子 辻 真希
	洗髪・清拭	1/7 (3, 4限) 1/14 (3, 4限)	I C U 8階南 11階北 I C U 16階南 12階北 坂野 綾乃 羽柴 貴代 佐藤亜也子 坂野 綾乃 永田 千恵 早川 瞳
クリティカルケア 看護援助論	心電図のモニタリング、止血法、人工肛門装具の交換、術前呼吸訓練	6/2 (1, 2限)	16階南 13階南 吉田 恵美 関亜 也子
生涯発達看護援助論 I	新生児のフィジカルアセスメント・バイタルサイン測定	7/8 (3, 4限) 7/22 (3, 4限)	8階北 8階北 稲垣 水宝 田中 幸子
生涯発達看護援助論 II	輸液ポンプとシリンジポンプの基本操作	6/4 (3, 4限)	9階北 9階南 石塚 舞衣 大内 麻衣
看護援助論III	小児のバイタルサイン測定	11/20(3限)	9階南 NICU 大内 麻衣 小塚 星佳

表2 看護部研修

研修名	研修目的	対象者	講義担当
症例検討	<p>目的：看護に必要な能力開発と自己の看護観について考えることができる。</p> <p>目標：継続受け持ち患者の症例を通して、看護過程における問題分析・解決能力を高めることができる。継続受け持ち患者の症例を検討する過程で、自己の看護観について考えることができる。自己の思考をまとめ、他者に伝えることができる。看護観について意見交換することで、自己の看護観を深めることができる。</p>	3年目職員 (103名)	<p>講義：「看護過程」</p> <p>講師：看護マネジメント学 准教授・金子さゆり</p> <p>日時：5/29、5/30 (16:00～18:00)</p>
指導者Ⅰ	<p>目的：人材育成能力を養うことができる。人を育てることで、喜びを感じることができる。</p> <p>目標：対象の背景を知り、臨床指導者の役割を理解できる。「良い指導」について考え、実践することができる</p>	3年目職員 (103名)	<p>講義：「基礎看護教育の中での臨床実習の位置づけ」</p> <p>講師：がん看護慢性看護学 准教授・池田由紀</p> <p>日時：8/22、8/25 (13:00～17:00)</p>
リーダーⅠ	<p>目的：患者に合わせた看護を行ううえでのリーダーシップを取ることができる。</p> <p>目標：固定チームの中での日々のリーダーの役割について理解する。患者に合わせた、必要な看護を展開することができる。</p>	2年目職員 (110名)	<p>講義：「看護過程」</p> <p>講師：看護マネジメント学 准教授・金子さゆり</p> <p>日時：11/13、11/14 (13:00～17:00)</p>
指導者Ⅱ	<p>目的：人材育成能力を養うことができる。人を育てることで、喜びを感じることができる。</p> <p>目標：成人学習を支援するためのコーチングスキルを身につけ、実践に活かすことができる。動機づけ理論を活用し、指導場面の演習、リフレクションを通して、承認スキルを向上できる。</p>	臨床経験年数4年 目～16年目の職員 (46名)	<p>講義：「成人教育」</p> <p>講師：がん看護慢性看護学 准教授・安東由佳子</p> <p>日時：1/27 (8:45～12:45)</p>